

【1班】

【ファシリテーター】猪股 富美子（お茶の水女子大学）

【書記】亀岡 優輔（学生団体 Re:inc）

F『身の回りで起きた体験したトラブルはどんなものですか』
 S「恋愛感情に関して。ラインを使って異性とコミュニケーションをして文面で勘違いをさせてしまった。その後、それを理由なのかネット上での陰口を書かれた。文面からは感情が読み取れない。コミュニケーション上の齟齬が生まれた」
 S「SNS等の文面によって誤解を生んでしまうことは自分でも思い当ります」
 S「今日もあったのですが、コミュニケーション内容が伝えきれなかった」
 S「電話した方がいいけど、ちゃんと出てくれるかが心配です」
 S「現実世界とネット上で態度が異なる人がいるよね」
 S「文面で伝わらないことをスタンプや絵文字で補おうとするが、ちょっといいのがない」
 S「スタンプだけを送られてきた時にどうすればいいかもわからない」
 S「既読機能の意味が生存確認から変わって煩わしくなっている。既読無視が面倒」
 S「ワンクリック詐欺や勝手なウイルス診断による被害は周りでも聞く」
 S「迷惑メールが多いのも問題だよ」
 S「名簿を売られてしまったのか、知らないアドレスからメールが来る。またフィッシング詐欺みたいのもひっかかる」
 S「インターネットを使うアプリはあまり使わない」
 S「アプリゲームでは24時間、全世界の人と遊べるのはいいが、誹謗中傷やトラブルがうまれてしまう。ゲームをしていて下手な人がネット上にさらされてしまうケースもある」
 S「プリクラや写真を勝手にSNS上にあげてしまうことも問題。個人情報の流出につながる。肖像権や相手の合意という問題をクリアする必要があるのではないかな？友達という関係を過信してしまう点は問題である」
 F『では議題を変えて。万が一でも遭いたくないトラブルは？』
 S「勝手に勝手に悪者にされてしまうというのは難しい」
 F『炎上したことあるか？』
 S「炎上の経験はないです」
 S「知らないところで書かれる悪口は嫌だ」
 S「鍵アカウントを信頼する友人だけに開放するのもどうか疑問である」
 S「ネット上だけ強くなっちゃう人はなんか嫌。フォロワー数が多いことがいいと勘違いする人もいる」
 S「ツイッターから住所がばれていざされた事例は怖い」
 S「ストーカーはいやだ」
 S「いきなり個人チャットを送られたり、フォローされるのは怖い」
 S「でも、知らない人とコミュニケーションを取ったり、取られたりすることが承認欲求を満たすことにもなって調子に乗るひとも多いよね。歯止めがきかないよね」
 S「特定、身元がばれて危害を加えられるのはいやだ」
 S「SNS上に愚痴漏らしてる人もいるよね。でもこれが広がると嫌だよ」
 S「しゃべるのに気を使うようになる」
 S「一番の問題は感情が文面から伝わらないことだと思う。じっくり考えて文章を送るようにしないとイケないのではないか？」
 F『危険度を分類してみよう。身近な嫌なことから、犯罪行為まで分類したり関係を書いていこう』

—模造紙でも分類を開始—

S「一番危険なのはストーカーかな」
 S「あとワンクリック詐欺もあるよね」
 S「誰だかわからない人からの連絡、ネット上の人の顔写真が本当にわからないよね」
 J【今は写真に写る瞳の瞳孔にある風景から特定されてしまう。解像度が良くなったおかげでもある。なので解像度を下げるのも手段だよ】
 F『トラブルを犯してしまったらどうするか。どう防止できるか』
 S「自分の非を認めるのは難しいよね」
 S「送る前に見直すようにしないと相手とのトラブルを生み出すよね」
 S「そのトラブルが裁判沙汰や犯罪に結びつくのかもしれないね」
 S「自分たちの世代の人が軽く考えているのも問題だよ」
 S「でもトラブルが起きているときには自分で謝るのが必要だよ」
 S「あと、知識ある大人に相談するのもいい手段だよ」
 S「感情的にならない。長文を送りつけたり、相手をSNS上でブロックしてしまう前に冷静になることが必要だよ」
 S「スルーすることも大切。無理にすべてを受け止める必要はないってことを知るべきかな」
 S「相手に意思を前もって伝えることで、相手側の理解を求める」
 S「それってどういう意味？ってことを聞くのが重要であると思う」
 S「自分が便乗して巻き込まれてしまうケースもあるから抑制しないと」
 S「クラスの権力ある人が言ったら拒否はできないよね、、、」
 S「もし逆らったらいじめのターゲットにされるんじゃないかという恐怖はある」
 S「もし自分がいじめられたら助けてくれるか不安である」
 S「具体例として、僕の卒業した先輩たちはルールを作ったことで抑制を聞かせていた」
 S「でもそれが常識であるよね」
 S「だからルールを自発的に作るが必要だし、知識を入れて更新する必要がある」

45分経過

F『さっきの時間にあつたトラブルの具体的防止法を考えていこう。また大人の言っていることについてどう思うかも意見をを出してみよう』
 S「大人の人の言っていることに異議はないけど、言い方が嫌」
 S「世代間の差があるよね」
 S「自分の親に知識がないから、ちゃんと勉強してほしい」
 S「子供から親への提言を出すことも必要である」
 S「大人から言われて腹立ったことは？」
 S「ながらスマホを注意されたり、ネットをしたから成績が下がったとか言われるのは嫌だ」
 S「スマホに対する価値観が親と子で違う。そのために何気ない行動をしていて注意されるのはいや」
 S「わが子を大切にしている親心であることはわかるけど、受け入れることができないことがある」
 S「家族の中で話し合っただけでルールを作っていくことが重

要なのではないか」

S「ネットのトラブルは親子間の問題でもあるのではない
か」

F『あらためてトラブルについて』

S「LINE に居座ることや Skype の回線を禁止されること
もあった」

S「メールやログを送りつけてアプリを起動できなくさ
せられる」

S「あと「荒らし」もいるよね。反応が面白くてやって
んだろうかね」

S「親によるフィルタリングや荒らし防止のアプリがあ
るなら効果的かもね」

F『フィルタリングをどう思う』

S「フィルタリングは行き過ぎている。必要なサイトにも
アクセスできない」

S「Android では親の許可でアプリのダウンロードの可
否を操作できるものがある」

S「広告にわけつな画像があるせいで必要なサイトに
入れない」

S「フィルタリングを改善すべきである」

S「そして知識を蓄えるのが必要だよね」

F『裏アカはどう思う』

S「裏アカを作る人を非難する人はどう思う？」

S「たまにいるよね。正義感があるのか」

S「ツイッターの鍵アカウントって閲覧範囲が制限され
るの？」

S「そうだね。フォロー許可されないと閲覧できないん
だよ」

S「でも鍵アカじゃないと配信内容が世界に広がってし
まう」

S「使う側に問題があるけど、注意する側もちゃんと知
識を持ってほしい」

S「注意するなら具体的にケースやもっと明確に伝えて
ほしい」

S「あと、歩きスマホやアプリによって地元のスポット
に人がいたり車の不法駐車がある。それで一度ぶつ
かりかけたよ」

S「大人も視野が狭くなることもあるんだよね」

F『じゃあ少し休憩しよう』

—休憩終了(14:17)—

F『いざトラブル発生したらどうする?』

S「トラブルの分類をしていこう」

—模造紙に記入を開始—

90分経過

—発表用ポスター作成開始—

<熟議終了>

F=ファシリテーター、S=生徒、J=事業者、T=教員

【ファシリテーター所感】

メンバー全員が積極的に発言するタイプだったので、ファシリテーターも生徒に任せ、私はファシリ補助にまわった。1人1人の個性や多様な考えを生かしながら話し合いを進められたと思う。大人が決めた話し合いのプロセスを臨機応変に調整しながら、生徒中心のシナリオで結論を導き出せたと思う。

【書記所感】

メンバーそれぞれの個性が生きる班だった。意見に関してもポストイットに書く活動がとまるくらい出てきていた。また、資料作成やポスター作成に関しても役割分けはスムーズであった。意見内容はストーリー被害から人間関係ト

ラブルまで多様であり、フィルタリング機能や親の IT リテラシーへのクレームが出るなど本質的な論点の議論ができていた。

【2班】

【ファシリテーター】菅野 泰彦（日本スマートフォンセキュリティ協会） 【書記】窪田 大悟（学生団体 Re:inc）

Q: F『最初に、身の回りで起きたトラブル、または、万が一でも遭いたくないトラブルを教えてください』
 →「ワンクリック詐欺：出会い系に引っかかった例。盗撮されてSNSに投稿された。情報流出」
 →「出会い系詐欺、電話したら男に脅迫された」
 →「遭いたくないもの：情報を取られること。詐欺に引っかかったが親に相談することで払わずに済んだ」
 →「友達がタイムラインで悪口を書かれていた」
 →「クエスチョンマークとかうまく使わないとトーク相手との言葉の食い違いが起きる」
 →「周りから嫌われている子でグループに招待されていなくて、集合場所とか分からなかった」
 →「誤解な投稿なのに」
 F『盗撮した人は何か処分されたの？』
 S「先生に言って消してもらった」
 F『男と女でトラブルの内容や捉えかたの違いがあるのかな？』
 S「男子は女子より自撮りが多い。お祭りとかお泊りとか」
 S「女子はプリクラとかが多い」
 F『男女間で使い方や使うツールが違うんだね』
 S「インスタグラムで写真を投稿すると外国の方などいろんな方から反応がある」
 F『他にはどう？』
 S「中学3年生のとき、男子のグループと男女のグループがあり、男女には全員入っているが男子だけは一人だけはぶられている」
 F『そういうのがあるっていうことは学校カーストって実際にあるの？』
 S「トークグループであった。上の人の意見が主導で、下の人の意見は無視される。リアルでも同じ」
 F『そのときどうするの？』
 S「省かれないように努力する。ずっとニコニコしてたり…」
 S「私はががつ言っって、正しい人についていく。常に相手のいいところを考えることが必要」
 F『SNSの使い方についてはどうですか？』
 S「SNS上のことは信じるのは危険だし、そこに載っている情報を鵜呑みすることは危険。直接会って話すことが大事」
 F『注目して欲しいという子が多い』
 J【ある学生がアイドルグループのメンバーをクラスの友達という風に周りに話したけど、実際はCGのメンバーである学生は叩かれたとういうことがあったよね】
 S「SNS上のことがすべて真実とは限らない」
 S「SNSなどの便利さの影にはリスクがあるということだよ」
 F『詐欺系のお話を深掘りしていきましょう』
 F『守るべき情報は何か？』
 S「住所とかの個人情報。知られただけで送られてくる」
 F『ウイルス系は何かあるか？』
 S「情報流出など」
 S「SNSのアカウントを乗っ取られる」
 S「ワンクリック詐欺とか興味本位で開くときに、URLのアルファベットとか見えていますか？そういうところも危険だよ」
 F『今までの話をネットだけの問題なのか分類しながら模造紙にまとめていこう』

S「ネットも現実のことだからやることもネットと同じでなければならない」
 F『ネットだけの問題じゃないこと全般としては、プラスの気持ちがないとトラブルに負けてしまう。心の持ち方が重要。どんなトラブルでも対応できる体力をつけることが重要。そのような強い存在になるために必要な対策をゴールとして持っていこう』
 S「(プラスの気持ちに持っていくには) 学校生活については素直になること」
 S「誤るだけではなく感謝もする」
 F『カーストとかって何でできるの？ どうして従うのか？』
 S「一人ぼっちがいやだから」
 F『それもまさに心の問題。友達というのは自然にはぐくむものだしね』
 F『学校生活の問題については相手の立場（加害者・被害者）になって考えることが重要。これは詐欺にも言えること。SNSでの問題では”私とあなたは友達じゃない”という言葉一つとっても、信頼度によって言葉の意味どちらをとるか変わってくるということが重要。これらから3つの問題に共通することは物事を多角的に見ること』

<熟議終了>

F=ファシリテーター、S=生徒、J=事業者、T=教員

【ファシリテーター所感】

最初の 1 時間方向性が決まるまでは一緒にディスカッションしましたが、その後はグループの高校生が自ら主体的にまとめてくれました。素晴らしいです。

【書記所感】

積極性のある高校生が多く、議論がスピーディにかつ内容濃く行われていて高校生達の考えを多く知ることができた。スクールカーストなどの話題から高校生らしさを所々に感じた議論であった。

【3班】

【ファシリテーター】佐藤 正二（鎌倉女学院高等学校）

【書記】宮本 真穂（EMA）

■第一セッション
 F『身の回りにあるネットのトラブルについて、思いつくものをいくつでも紙に書いて出してみよう。自分が体験したことじゃなくて、友達のことや聞いたことでもいいよ』
 F『じゃあこれからいこう。この、Twitter ののっとり、っていうのは？』
 S「友達が変な連携アプリを認証しちゃって、何分かおきに変なツイート勝手にするようになったことがあって、詳しい友達が集まって手助けをした」
 F『手助けっていうのはどうやってしたの？』
 S「認証を解除したり、パスワードを変えたりした」
 F『LINE のグループを退会させられた、っていうのは？』
 S「LINE のグループで一人が仲間はずれにされて、グループから外された」
 F『そのあとどうしたの？』
 S「そのまま。喧嘩別れ」
 F『ポケモン GO のにセアプリで個人情報が流出、っていうのは？』
 S「ポケモン GO はひとつしかないんだけど、にセアプリがあって、入れると個人情報が流出しちゃって聞いた」
 F『LINE で恐喝、っていうのは？』
 S「違うクラスの人同士でトラブルになって、片方の人が、俺のクラスの人に手出すなってみんなをおどしてた」
 F『Twitter で悪口を言っているところを言われた人が見た、っていうのは？』
 S「Twitter で、ある子が、ある子の悪口をずっと書いてたんだけど、あるとき書いてる最中に、その相手が隣に座ってて、見ちゃった」
 F『それはすごいね。そのあとはどうなったの？』
 S「仲直りしたけど、気まずさが残ってる」
 F『載せられたくない写真をアップされた、っていうのは？』
 S「友達同士で撮った写真で、水着で撮ったのがあって、載せないでって言ったのに貼っちゃって、男子とかにもけっこう広まっちゃってケンカになった」
 F『Twitter で知らない人からまれた、っていうのは？』
 S「写真をあげたら知らない人が、下心があってからんできた。個人情報は上げてなかったけど」
 F『それはどうしたの？』
 S「お互い見られないようにした」
 F『Twitter でささいな事で荒れた、っていうのは？』
 S「ちょっと冗談っぽい感じで、死にたいと言っている子がいて、別の子が、この子も冗談なんだけど、首を吊るとか、どうすると楽に死ぬるよ、みたいなことを書いてたら、盛り上がっちゃって、それを見た他の子が、そんなこと言うな！って怒った」
 F『知らない人に DM でお金を請求されたっていうのは？』
 S「友達が、Twitter でいきなり知らない外国人にフォローされて、僕は有名人だから、フォローしてあげたんだから金を払えとか言ってた。すごいたくさん来た」

F『あげるっていうのはけっこうあるけど、くれているのは珍しいね』
 F『ひとりだけ LINE グループに入れてもらえない、っていうのは？』
 S「グループを立ち上げた人が特定の人を、こいつは知らない、って仲間外れにした。立ち上げた人は普段からぐちぐち言う、強いタイプだったので、まわりも反対できなかった」
 F『LINE で複数人から袋叩きっていうのは？』
 S「友達が、ちょっとした言葉の誤解ですごい叩かれて、いっぱい悪口を書いて、その友達がそれを見た瞬間にグループを抜けさせた」
 F『その後どうしたの？』
 S「その友達は心が強かったので、知らない、あんなやつらはほっとけて、平気」
 F『LINE での悪口っていうのは？』
 S「いいよ、っていう言葉が、悪いほうに取られちゃって、ギクシャクした」
 F『似てる例に、これ可愛くない、っていうのがあるんだよね。文字のやりとりだから難しいよね』
 F『LINE のケンカが学校内で恐喝に、っていうのは？』
 S「はじめは2人から始まったケンカが、それぞれ味方をする人たちが集まって、10人から20人くらいの2グループにわかれての争いになって、大騒動になった。そのうちの誰かが、相手に裸の写真を送れって言ったらしくて、警察沙汰になった。全校生徒の携帯が全部没収されて、警察が全部チェックした」
 F『盗撮された写真に私も写っててイヤだった、っていうのは？』
 S「学校で、ある女の子が、幼なじみの男の子の写真を遠くから撮って、盗撮しちゃった、とか言ってたんだけど、そこに私も写ってた。男の子より私のほうが手前にいたから大きく写ってて、ヘンなカオしてたときだったしイヤだった」
 F『出てきたやつをグループわけしてみよう』
 S「Twitter と LINE で分けようか、それしか出てきてないし」
 S「Twitter でも LINE でも、悪口って出てくるやつはまとめたほうがいいと思う。アプリが違うだけで内容的にはいっしょだから」
 S「写真系もそうだね」
 S「LINE グループのやつはまとめよう」
 F『グループができたらマーカーで囲って名前をつけよう』
 S「これとこれは同じ感じもするし、違う感じもするな」
 J【加害者か被害者かって視点で分類してもいいんじゃない？】
 F『名前を付けたら、複数あるのを要約してみよう』
 ■第二セッション
 F『トラブルを予防するためにどうすればいいか。違う色の紙を使って、さっきのグループごとに書いてみよう』
 F『出揃ってきたけど、これはどれも個人で気を付けることだね。わかっているからできるかもしれないけど、これを知らない人ができるようにするにはどうすればいいだろう？教える方法とか、システムでできる

対策とかがないか、考えてみよう』
 S「送信画面に、誹謗中傷の言葉が入ってたら止まるとか」
 F『サービスを作ってる人へのお願いになるね。そういうのも書いてみよう。他にも、教える方法とかでもいいよ』
 S「講習会とかをやってる学校もある」
 F『そうだね。でも講習会をやっている、こういうことが起きてしまっているよね。どうすればいいか考えてみよう』

 F『この、悪口を消せるシステムっていうのは？』
 S「いやなことを書かれた人が、相手に直接言うのは難しいから、システムで消せる」
 F『通報とは違うの？』
 S「通報だとタイムラグがあるから、とりあえず自分が見ないですむようになる。相手にわからずに」

 F『SNSの使用を法律または条令にするっていうのは？』
 S「いやなことをする人とかを、私たちじゃなくて、機関とかが、ちゃんと調べて、何かあったら身元を特定して、処罰することにする」

 F『迷惑メールフィルターのようなもの、っていうのは？』
 S「いやな発言とかを、受け取った側が、見ないですむようにする。送った側にはわからなくて、送った側は送ったつもりになる」

 S「LINE は一対一だからトラブルになるのであって、もし親が見てたら、親に見せられないような発言はできないはずだから、LINE のトークを大人が見れる仕組みを作る」
 F『それは通信の秘密があるから、親であってもそのまま見せることは難しいね。千葉のほうで導入してる仕組みで、親と子両方に入れて、子どもの同意を得て使っているものがある。そういうものであれば、できるかもしれないね』
 S「アプリをインストールするときに色々な権限に同意を取っているけど、そういうのも入れたらいいんじゃないか」

 S「高校生が高校生に教える団体を作る。大人の言うことは聞きづらいけど、高校生同士なら聞けるし、体験談もできるから」
 F『それはどういう人たちがやるの？』
 S「こういう集まりに出てるような子が、もっと大きな規模で、全国的な団体になる」
 F『いいね、それも書いておこう』
 S「大人の話は古いものが多い。高校生が教えることに価値があると思う」

 S「体験アプリを作る。実際に体験してみないと怖さがわからないから、個人情報流出体験アプリとかを作る」
 F『個人情報じゃなくて、ここに挙がってるの全部できるね』

 S「被害者と加害者両方体験できるといい。体験型学習

にする」
 F『他人とのトラブルについてはどうだろう』
 S「他人と繋がる時は QR コードだけにする。実際に会って確認しないとどういう人かわからない」
 F『いやな人は相手から来ちゃうことが多いんじゃないかな。そういうのはどう防止する？』
 S「のっとりとか詐欺とかだったら、オークションサイトにあるみたいに、リンク先が怪しいときは、これは詐欺の疑いの強いアカウントです、とか出るようにする」
 S「にセアプリとかだったら、公式からしかダウンロードしないようにするとか。でも Google ストアは何でも乗っちゃうからダメかなあ」

■第三セッション
 F『それじゃ、最後のテーマ。トラブルが発生したときにどうするか。これまでの議論を踏まえて自由に書いてみよう』

 S「親や大人に相談する。ネットのトラブルでも、結局は現実には起きていることだから、親のほう詳しいと思う」
 S「今ある相談機関とかは、高校生にとっては遠い気がして、相談するのも怖い感じがするから、もっと身近に感じられる相談機関を作る」
 F『そういうものがあつたら、どうやって広めたらいいかな』
 S「学校で紙を配る」
 F『捨てちゃうんじゃないかな』
 S「そういう人もいるかもしれないけど、私はそういうのがあつたら、普通に使う、電話すると思う」
 S「SNS・被害とかでネット検索したとき、検索結果の一番上に、被害相談はこちら、とか出るようにする」
 F『この、前例を探す、っていうのは？』
 S「同じような被害は必ず起きているはずだから、まずは調べるようにする。相談するのはハードルが高いから、同じような事例を探して対処する」

 F『出たものをまとめてみよう』
 S「未熟な人と未熟じゃない人がいるから対策が違うと思う」
 F『その違いはどこからくるのかな』
 S「知識量？自分で調べられるか、他人の話を鵜呑みにしちゃうか」
 S「講習会をしたらどうかな」
 S「講習会だと、一方的に話されるだけで飽きてくる」
 F『今日の講演はどうだった？』
 S「良かった。動きながら話したり、話もうまかったから飽きなかった」
 S「講習会とかに来る人はたいてい話がうまくない」
 F『スマイリーキクチさんみたいだったらいいのにな』
 S「講習会を、今やってるこれみたいにする。グループワークにして理解を深める」

 <熟議終了>

F=ファシリテーター、S=生徒、J=事業者、T=教員

【ファシリテーター所感】
 最初は遠慮がちに議論をしていたが、途中からいろいろな意見が出てきて生徒たちは考えの視野が広がってきて、とても良い意見が多く出て来て良かった。学校に帰って今日のことを多くの生徒に伝えて欲しいとおもう。

【書記所感】
 ICT カンファレンスには何度か協力しているが、いつも高校生たちの新鮮かつ鋭い意見に触れることができ、よい刺

激になっている。今回も興味深く熟議を聞き、インターネットの未来を担う高校生たちが頼もしく感じられる。これからも、スマホネイティブ世代ならではの、鮮度の高い意見を磨いていってほしいと思う。

<p>【4班】</p> <p>【ファシリテーター】藤川 由彦 (EMA)</p> <p>F『トラブルもいろいろあって、そのトラブルに対する原因、なぜ巻き込み、巻き込まれるのかを考えてみよう。イメージを膨らませていこう。自由な発想で進めていこう。まずはトラブルについてあげていき、それをピンクの模造紙に書いて、似たものをまとめていき、予防・対策を順を追って考えていこう (それぞれ色も分けて)』</p> <p>S「友達が彼氏に成りすまされた、Twitter とか全部画像が一緒だった」</p> <p>S「こわいね」</p> <p>F『聞いた話でも、友達の話でもどんどん挙げていこう』</p> <p>S「制限の話でもいいのでは？制限をシェアすることで、お姉ちゃんとの格差ができています」</p> <p>S「そうだね、それもさっきの話 (GREE の講演) の被害者と加害者の話になるね」</p> <p>S「クラスのグループで悪口を書いて、先生に言って、その生徒は停学処分になったよ」</p> <p>F『先生に言ったんだ。じゃあ、結構対応できた感じ？』</p> <p>S「まあ、対応できたよ」</p> <p>J【先生は理解してくれたの？】</p> <p>S「うん、結構理解してくれる先生もいる」</p> <p>J【中には理解できない先生もいるんだよ】</p> <p>S「LINE の ID を勝手に教えられて、友人に追加されたり、Twitter で自分の写真を勝手に載せられたりした」</p> <p>F『プライバシーの侵害だよ』</p> <p>S「ぼくがいうプライバシーの侵害は、それじゃなくて、芸能人がプライベートで旅行とか行っている、一般人から SNS に載せられたりすることがあって、それってプライバシーの侵害って授業でやった」</p> <p>S「たしかに！ でも、SNS に勝手に写真載せられた友達がいたけど、やっぱりいい気分はしていなかった」</p> <p>J【QR コードとか電話番号とか LINE の ID とか、みんな重要性は同じ？】</p> <p>S「全然違う、電話番号は特別」</p> <p>S「電話番号は私生活に近い」</p> <p>S「電話番号はもっと仲良くなってから」</p> <p>S「電話番号はあんまり聞かれないかな」</p> <p>S「LINE で電話できるしね、聞かれることない」</p> <p>S「基本はグループで、追加追加って友人登録されたり、グループの招待がくる」</p> <p>F『なんで、私のを教えたのよとかってある？』</p> <p>S「あるある」</p> <p>F『じゃあとちとあえず、いったん整理しようか。順番に説明しながら、似たようなものはかためて紹介してもらえますか』</p> <p>S「Twitter とかで鍵アカウントとかあるんですけど、どんなに狭くしても、スクリーンショットとかして、フォローしていない人でも回されてしまう。個人情報漏えいの問題、音楽とか映画とかの有料コンテンツの問題、素早く情報がくことからのパニック (原宿通りに芸能人の誰々がいるとか)、真実とかデマとか噂が一人歩きしてしまうことがある、あとは誹謗中傷、ネットストーカー (位置情報がわかる写真から行動範囲の特定、ベランダの写真から住居の特定、自分はそのつもりがなくても、ストーカー道具に使われてしまう)、じゃあ次」</p> <p>S「嘘のネット情報とか情報格差かな。自分が住んでいるところは本当に田舎だから、都会とは全然ちがう。Wi-Fi とかないからスピードもちがう。あとは、プライバシーの侵害とネット依存。いところがネット依存の子がいて、昔から仲良かったけど、ネット依存になって引きこもりになって。あとはネットいじめか</p>	<p>【書記】小川 眞理絵 (中央大学)</p> <p>な。LINE のグループから強制退会させられたり、写真がばらまかれたりする。歩きスマホや、あとは高額請求。次」</p> <p>S「まずネットいじめ。次の日になれば、全部に回っている。先輩にも後輩にも。あとは格差の問題。ネットによって、強い人、弱い人って別れてしまう」</p> <p>S「知らない人からの LINE のメッセージがきた。本当に知らない人なのに、電話登録されている。友達に、この人知っている？と聞いても、だれも知らないという。防ぎようがないし、ブロックするしかない。あとは、成りすまし。知らない人からのフォローがくる。メールとか100通くる、1億円当たりましたとか。だまされる人はだまされると思う。あとは、1番深刻なのが、通信制限。最初使い始めてから、思うようにアプリをダウンロードして、家族全員に迷惑がかかる」</p> <p>S「友人関係の悪化。情報力が強い子が、クラスの強い子になる。発言力が強い子になる。あとはウイルスやワンクリック詐欺。友達はウイルスで乗っ取られた。そういうの怖いと思う。あとはありもしない噂を流されて、学校をやめた子がいる。親と子供のスマートフォンを持たせる意図や使い方、慣れ方に差がある」</p> <p>F『全部出してもらって、それぞれ原因を考えていこう。わかりやすいところでいくと、なりすましとかかな。ワンクリック詐欺知っている？』</p> <p>S「知らない」</p> <p>S「まじびびるよ」</p> <p>F『どこでひっかかったの？』</p> <p>S「ふつうにサイトで、すごいびっくりした。振り込んでくださって」</p> <p>F『どうやって対処したの？』</p> <p>S「間違えて自分の情報を教えてしまった。そうしたら、迷惑メールがばーばーってくるようになった」</p> <p>F『ウイルスの原因って何だと思う？』</p> <p>S「個人情報って、高いお金がつくと思う。小さい子供の個人情報こそ、高く売れる。その情報を手に入れるためには、やっぱりウイルスとかの手段が有効だと思う」</p> <p>F『違法ダウンロードは？』</p> <p>S「少し音質を下げただけで、Youtube とかに上げていく」</p> <p>S「でもこういうのは防ぎようがないよね」</p> <p>S「人が原因のもの、機械とか機能が原因のもの、トラブルを分けるのはどうだろうか。どっちもどっちなのは、真ん中にして」</p> <p>S「ワンクリック詐欺とかウイルスって個人情報を引き出すためだと思って、機能の部分もあるんだけど、人の部分もあるのではないかな」</p> <p>S「ネットいじめは、人による悪意が多いもの、ワンクリック詐欺は悪意があるけれども機能的なものだと思う。分けていくのはどうだろうか」</p> <p>S「十字の形にして、Y 軸が悪意の高い低い、X 軸が人のかかわりが強いものと、機能的なもので」</p> <p>F『真ん中は0じゃないよね、50くらいにしとこうか、中間』</p> <p>S「速度制限は、人とかかわりはあるけど、悪意は全然ないよ！」</p> <p>S「ネット依存は人とかかわりは低いし、悪意も低いよね」</p> <p>S「格差は？人とかかわりはあるけど、悪意というよ</p>
--	--

りかは、自然に発生しているよね」
 F『一個、一個確認していいか』
 S「成りすましは超悪意だよ」
 S「知らない人からのメッセージは？向こうの人から見れば、悪意はそんなにないかも、軽い気持ちで。こっちからしてみればすごく迷惑だけど」
 S「噂やデマは、悪意だし、かなり人とかかわりも高いよね」
 F『大体みんな納得かな。対策は1つ1つ考えてもいいけど、せつかく分けたのだから、悪意が高くて、人とかかわりが高いものの対策は、おおまかにこれとか考えてみるのはどうかな』
 S「フィルタリングとか」
 F『善意が故のトラブルってないのかな』
 S「友達が LINE のアカウント2個持っていて、男子校だから一つのアカウントを女の子用で作って、男子校だから女の子紹介してあげるよって、その友達の友達に女の子とのLINEの体験をさせようとふざけてやって、でもばれて、すごい仲が悪い」
 S「あー、典型的な善意のトラブルだね」
 S「ネットのトラブルにあたって、保護者が見守るアプリとかあってない。結局どこのサイトもフィルタリングをしようって話になる」
 S「フィルタリングはWi-Fi がつながるところはだめだよ」
 S「フィルタリングがかかるものとかからないものがあるって、フィルタリングっていうものを過信しすぎている。フィルタリングが漠然としすぎていて、守られている気がしない。危険が近くにあるから、守りも近くにしたい」
 S「あとは、保護者同士の話あいを、定期的にもつとか」
 F『うん、大切だね』
 S「Wi-Fi がおじいちゃんの家だけ飛んでいて、おじいちゃんの家で Twitter とかツムツムとかやっている、母親からスマホやりすぎと言われてしまう。Wi-Fi が飛びすぎているともだめだと思う」
 F『家に機械をおいたら、Wi-Fi を自宅に持ってこれるはず』
 S「たぶん6千円くらい」
 S「おこずかいで買えちゃう、でも勝手にやると怒られるから」
 F『やっぱり家族間でのコミュニケーションが必要不可欠だね。ネットいじめとかの予防策とかあるかな』
 S「機械的じゃないよね、心の移り変わりみたいな。精神的な部分がある」
 S「防ぎようがない、向こうが間違っただけの判断をする」
 F『いじめられないように、あらかじめ防ぐっていうのも難しい』
 S「そういう対策を見ても、ネット用語とかあって結局わからない。防ぎ方が身近じゃない」
 S「いじめの発端っていっぱいあると思うけど、例えば寝落ちで返事が来なくてはおぼかされるとか。ルールを作してほしい」
 S「LINE のグループルールを作るとか」

S「すべてテレビ型のコミュニケーションになってほしい」
 S「顔が見えるって大きいよね」
 S「グループって言っても、どんどんどん新しいグループができていき、少しくりがない」
 F『トラブルの携帯電話を持っていても持っていないなくても、いじめはおこるのかな』
 S「いじめはきりがないと思う」
 S「言葉だけだと深刻になってしまう、怒っていないけども怒っている風にとられてしまったり」
 S「表情一つでわかるものが、LINE やチャットだとわからなくなる」
 S「やっぱり通話式のコミュニケーションがいいのかな」
 F『他にこれと同じくらい匹敵するものはないだろうか』
 S「LINE の壁紙をそのグループの人の顔にするとか」
 F『相手のことを考えるようになるよね』
 S「相手のいいところを20個みつけるとか」
 F『予防はこれぐらいにして、次は対策にいかうか。起こってしまったら、どうするか』
 S「起こってしまったら、とりあえず相談だ」
 S「1対1ならやりあえるけど、団体になってしまう。女子特有。仲間を作りたいがる」
 F『向こうは向こうで少し不安なのかもしれないね』
 S「本当に卑怯だ」
 S「プライバシーの侵害とか個人情報の漏えいは、法的措置をとるべきではないか」

～ 休憩 ～

F『知識をつけるって、具体的になに』
 S「それこそネット用語こそ覚えたほうが。結局ウイルスの問題は起こってしまったら、次起こらないようにすることが大切なので、そういう意味で知識をつけることが大切」
 F『ワンクリック詐欺って、あなたのことを知っているっていわれる。IP アドレスとかも知っているって。ワンクリック詐欺は、だんだんだんだんばれていく。電話番号を教えて、名前を教えて、住所を教えて。つまり最初の1回を教えなければばれることはない。これはでも知識だよ。だから知識といっても2種類あって、未然に防げる知識と、何かが起こった後、しなければならぬことを教える知識がある。発表のスライド3枚を意識して、まとめてみよう』
 S「最初に4つの枠を作って、そのあと対策や予防を紹介していくのはどうか」
 S「優先順位をつけていくべきではないか」
 F『この軸はいいものだから、混ぜたほうがいいと思う』

<熟議終了>

F=ファシリテーター、S=生徒、J=事業者、T=教員

【ファシリテーター所感】

ネットトラブルの原因を「システム - 人」の関わり度合いと、「悪意」の軽重の2軸で分析するという、非常に高度な挑戦に驚きました。また、全員が生き活きと討議する姿がとても印象的でした。

【書記所感】

どの生徒も活発に意見を交換していました。写真などの個人情報が勝手に流れたり、LINE のグループでハブられたりとか今の現状を知ることができ、良い経験になりました。